

# 二中コミュニティ・スクールだより

～市川市立第二中学校学校運営協議会～  
「夢・命・絆」

令和6年度第2号  
(通算第22号)  
会長 小林 俊之  
(文責 野手 裕之)

## 「令和6年度第2回学校運営協議会」報告

令和6年9月25日(水)に、令和6年度第2回学校運営協議会が、第二中学校多目的室において、委員11名の出席のもとで開催されました。

15時30分～17時30分の約2時間、二中生のために協議を行いました。

### 次第

1. 協議  
・学校評価について
2. 報告および意見交換  
・学校の様子について
3. その他

### ◎あいさつ

協議に先立ち、杉山校長と小林会長から次のようなあいさつがありました。

#### ○杉山校長のあいさつ

お忙しい中ありがとうございます。

学校運営協議会における意見を踏まえて、学校運営を進めております。

夏休み中は猛暑が続き心配な日々でしたが、大きな事件や事故もなく2学期を迎えることができました。

2学期始まって、元気に明るく生き生きと過ごしています。校外学習や二中フェスティバルなどの準備に、しっかりと取り組んでおり、また、部活動は1・2年生が引き継いで順調に活動しています。

本日は、学校評価アンケートに関して、ご意見を頂ければと思います。

#### ○小林会長のあいさつ

秋を迎えてお忙しい中、ご出席ありがとうございます。また、二中の学校運営にご理解とご協力に感謝いたします。

月日は早いものですが、子どもたちは元気に過ごしているということで安心しております。

コロナ禍以後子どもたちを取り巻く環境が大きく変容しており、また中央教育審議会でも先生方の働き方改革も含め検討しているとのことであります。

子どもたちの成長を支えるためにも、引き続き、ご尽力のほど、よろしく願いいたします。

### 1. 協議

学校評価アンケートについて協議を行いました。

杉山校長から、「学校評価アンケート(前期)の結果について」(案)に基づき、保護者アンケートと生徒アンケートの結果とそれを受けた学校の対応について説明がありました。その後、質疑などを行い、内容について、学校運営協議会で承認されました。内容については、学校から配布される「学校評価アンケート(前期)の結果について」(以下、「結果について」)をご覧ください。下記は、国立教育政策研究所の実施した「令和6年度全国学力・学習状況調査」(以下、「調査」)<sup>1</sup>も踏まえて記述しています。

<sup>1</sup> <https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/index.html>

### ①確かな学力について

「調査」において、国語（千葉県：57.0%、全国：58.1%）、数学（千葉県：51.0%、全国：52.5%）ともに、中学生の正答率は全国平均を上回る結果となっております。

その要因としては、中学生の授業以外の勉強時間が多いという点や「国語や数学が好きである」という点が考えられます。

反面、「結果について」で示されていますように、主体的に学ぶ（ないしは学習意欲）や興味・関心のさらなる向上を目指すためには、国語や数学の学習が大切であることや学習したことが社会に出た時に役に立つということに対してアプローチする必要性があるのではないかと考えられます。

### ③健やかな体について

昨年度の保護者アンケートの「規則正しい生活習慣（睡眠・食生活など）が身についている。」への肯定的な意見が77%であったのに続いて、今年度の保護者アンケートの「望ましい食習慣が身についていますか。」が、市内平均よりも高い結果でした。

また、生徒アンケートにおける規則正しい生活習慣に関する質問でも、肯定的意見が87.7%でした。

「結果について」で示されていますように、引き続き、学校でも、規則正しい生活習慣を身に着けるための取り組みを進めて欲しいと思います。

### ②豊かな心について

「結果について」にあるように、自己肯定感に関する「自分にはよいところがある」の結果が向上していることは、望ましい傾向にあるといえます。

「居場所（ほっとできる場所）の数」、「相談できる人がいる場の数」、「助けてくれる人がいる場の数」が、自己肯定感と相関関係があるといわれるよう（内閣府「子供・若者白書（令和4年版）」）に、先生がよいところを認めてくれたり理解してくれたりしている、また、困った時に相談できる先生がいるという生徒の意識が、自己肯定感の向上につながっていると考えられます。

なお、「調査」を受けて、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」や「人が困っているときは、進んで助けていますか」などを伸ばしていく必要性があると感じました。

### ④信頼される学校について

保護者アンケートにおける「二中に入学させてよかったと思う」に対する肯定的意見が93.1%となっており、また、「調査」における「学校に行くのが楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答が87.3%（千葉県、全国ともに83.8%）という高い結果になっており、とても望ましいといえます。

これからも、学校、家庭、地域で、子どもたちを大切に育てていきたいと思います。

## 2. 報告及び意見交換

### ・学校の様子について

大林教頭から、夏休み明けの生徒の様子について、引き続き、落ち着いて学校生活を送れているという報告がありました。

## 祝 生徒会大賞で奨励賞を受賞

一般社団法人生徒会活動支援協会による生徒会大賞2024（6月16日）において、第二中学校生徒会が奨励賞を受賞しました。



学校教育目標の前で記念写真



会議の様子



素敵な二中であり続けるために、今後とも二中生一人一人が考えて行動して欲しいです。

## 第二中ブロック合同学校運営協議会について（報告）

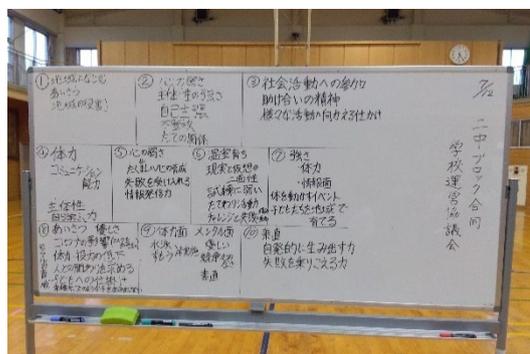
令和6年7月12日に国分小学校で、第二中ブロック合同学校運営協議会が開催されました。

第二中学校、真間小学校、菅野小学校、国分小学校、須和田の丘支援学校の委員が、10グループ（5～6名／グループ）に分かれ、「二中ブロックの子どもたちにつけたい力・できるようになって欲しいこと」について話し合いました。

どのグループでも、各委員から、二中ブロックの子どもたちのことを大切に思っていることがわかるような意見がたくさんありました。

体力面に関する懸念が挙げられた他には、主体性、素直さ（誠実性）、コミュニケーション能力、たくましい心（忍耐力、粘り強さ、レジリエンス）、社会奉仕や助け合いの精神（社会性、責任感、公共性）、意欲などといった、いわゆる、非認知能力を育てたいという意見が多く挙げられていたと感じました。

ちなみに、株式会社イー・ラーニング研究所が2022年に行った「2022年 子どもの非認知能力ならびにキャリア教育に関する意識調査」<sup>2</sup>では、「非認知能力の育成は子どもにとって重要だと思いますか」という問に対して、99%が「はい」と回答しています。そして、子どもの非認知能力（特に、その基礎となる自己肯定感）は、多くの大人から、守られている、助けられている、認められているということで培われる「アタッチメント（愛着）」が土台になるといわれております<sup>3</sup>ので、これからも、学校、家庭、地域が力を合わせて子どもたちを大切に育てていけるよう、よろしくお願いいたします。



<sup>2</sup> <https://e-l1.co.jp/corp/3575/>

<sup>3</sup> 中山芳一「学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす」東京書籍、2018年。

遠藤利彦「アタッチメント：『非認知』的な心の発達を支え促すもの」『日本教材文化研究財団研究紀要』第49号、2019年。

## 令和6年度地域学校協働活動推進員講座について（報告）

7月6日（土）に、地域学校協働活動として授業外学習プログラムの提供【「夢・命・絆」プロジェクト】のうち「命の講座」を2つ開催しました。

### 「折れない心を育てる いのちの授業」

一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会の認定講師をお招きし、苦しんでいる人との関わり方、自分が苦しいときの気持ちの持ち方やSOSの出し方など、そして、自分や他人を認めることの大切さを学びました。



### 「PUSHコース（救急救命講習）」

第2回目となる救急救命講習で、PUSHインストラクターの方による講習です。心停止が身近にあることを理解し、命の大切さと救える命があることを学んだうえで、胸骨圧迫のやり方とAEDの使い方などを学びました。



なお、「夢の講座」として、10月26日（土）に「ライフプランニング授業」を実施します。たくさんの中学生が参加してくれることを心待ちにしています。すでに募集案内を配布しています。

## 「コミュニティ・スクール」研修会について（報告）

8月21日（水）に千葉県教育庁教育振興部生涯学習課主催の「コミュニティ・スクール」研修会がオンラインで開催されました。

講演では、CSマイスターの高野睦先生による「地域とともにある学校づくり～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の活用を通して～」と題する講演がありました。「社会に開かれた教育課程」をキーワードにコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の効果や熟議の必要性などについてお話してくださいました<sup>4</sup>。

### 5. まとめ

#### ・ 地域と学校が連携・協働した教育を実践すると・・・

- ① 子どもの学びが広がる…教室の学びから社会の学びへ
- ② 地域の課題を見る目が広がる（子どもも大人も）…将来を見据えて今やるべきことをみんなで考える
- ③ 地域のコミュニティが広がり、安全・安心な生活を送ることができる（子どもも大人も）
- ④ 地域の企業・人・組織がつながる…学校という場を核とした「まちづくり」



<sup>4</sup> 資料については、こちらからダウンロードできます。

<https://drive.google.com/file/d/1o5r3AmLq9UdCUjfMeyrjSIkad9t8vzSI/view?usp=sharing>